



小田原 平塚・修善寺・柏久保正教会だより

2023年9月1日発行 第252号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226

# КРЕСТЪ クレスト

2023年9月号



かみ はは しんち ふぼ しん かな てん たまもの う  
神の母の神智なる父母は、神に適ふ天の賜を受けたり、  
こ いとたか ほうぎ ことば およ ぞうぶつ しゅ う もの  
是れヘルワィムよりも最高き寶座、言及び造物主を生みし者なり。

しょうしんじょたんじょうさい そうか  
生神女誕生祭 早課カノンより

### しるし 印のイコン

パニヒダのカノン九歌頌にもある「天より広き者」とも呼ばれるイコン。詳しくは2～3ページ「正教会へようこそ」参照。上記のカノンにある「神の母の神智なる父母」とは生神女マリヤの父母、祭司イオアキムとアンナのことである。長年子供を授かることを願っていた祭司夫婦のところにマリヤが生まれ、マリヤが神である子を生むことを示す祈りのうたである。

### ●五旬祭後第13主日聖体礼儀 (第4調)・執事会

9月2日(日) 10:00～ (9:30 痛悔)

使徒経: コリフ前書 166 端 (16:13-24) 福音経: マトフェイ 87 端 (21:33-42)

### ●五旬祭後第15主日聖体礼儀 (第6調)・月例パニヒダ

9月17日(日) 10:00～ (9:30 痛悔)

使徒経: コリフ後書 176 端 (4:6-15) 福音経: マトフェイ 92 端 (22:35-46)

### ●聖十字架挙栄祭聖体礼儀 (十二大祭)

9月27日(水) 10:00～11:30

使徒経: コリ前 125 端 (1:18-24) 福音経: イオアン 60 端 (19:6-11, 13-20, 25-28, 30-35)

## 正教会によろこそ 30

…ところで、イコノクラスム問題解決のきっかけとなったのが、皇后イリナ（イレーネ）とセオドラという女性二人だったことに気が付いた方もおられると思います。これは女性の役割に対する正教会の捉え方を表しています。この歴史が示す通り、敬虔な女性が帝国を司り、男性にも女性にも権威を保ち、さらには世界的な会議まで招集できたという事実です。実際にはイリナもセオドラも若い息子たちに代わって摂政となり、勝利を得ながら国を治めていました。他の正教国でも尊敬を得た女性たちが国を治めることはありました。ジョージアの聖タマル（西暦 1160-1213）もその一人です。はじめにお話ししたように、正教会を知る方法は、祈り・聖歌・イコン、そして信徒の生活に目を向けることです。歴史から見るならば、皇后イリナとセオドラをはじめ、聖マリア マグダリナ、聖フォティナ（ヨハネ/イオアン4章に出てくるヤコブの井戸にいたサマリアの女のこと）、そして聖パウロ/パウエルパウエルの同伴者聖フェクラなど使徒と等しい称号を戴いた女性たちがいます。教師、重使徒（伝道者）、克肖者、奇跡者、れんし簾施者（癒す人）、イコン画家、神学者、聖歌作者、カウンセラー、致命者、ようきょう佯狂者（神のおろ為に愚かとなった人）、このように呼ばれた女

性の聖人たちがいます。

もちろんこうした称号を戴く男性の聖人も数多くいます。聖職者でなければ聖人になれないということでもありません。聖職者は、もちろん、聖なる機密を摂り行うという、すばらしい役割を与えられています。しかし神は、実に多くの使命を一般信者に与えているのです。聖職者には10メートル四方の分与しかなく、他の世界全ては私たち信者に与えられていると言っても過言ではありません。

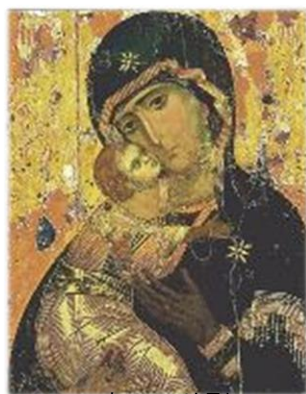
正教徒になる前プロテスタント教会所属していたとき、私と夫は女性が司祭や牧師になることを支持していました。正教会に加わるとき、男性だけに聖職者になる権利があるということも取りあえず一緒に受け入れ、その理由はそのうち分かればいだろうと思っていました。

時が経った今もその理由を知ることはありません。なぜなら気が付くと、それは議論の問題ではなく、神の啓示の一つだと受け入れるようになっていたからです。逆にいうと、私たちは正教徒になるまで、全ての事には納得のいく理由と結論が必要だと考えていたのです。（実は女性司祭問題というのは最近の話で、これまでのキリスト教会はこれで悩んでいませんで

した。どうやら現代のキリスト教徒には分からないことが、昔のキリスト教徒は明白だったようです。)正教会は他の教派で行われている「説明」をあまり採用しません。私たちは自分たちの歩んできた歴史や聖人の言葉からそれを考察する必要があります。おそらく今、再びこうした形の神学的研究を行う時代が来たのかもしれない。

イコノスタシス右側のパントクラートル(全てを治める者)と呼ばれるのキリストのイコンに対して、王門を挟んで左側にあるのは生神女マリアのイコンです。このマリアは幼いイイススを抱えています。この位置には必ず右腕でイイススの抱えた生神女マリアのイコンがあります。イイススは必ず「右に座する」のです(詩篇/聖詠 44/45:9)。

西ヨーロッパの文化ではこのスタイルの図像を総称して「聖母子」と呼びます。東のキリスト教文化にあるこの図像には様々な種類があります。例えば、幼いイイススが生神女マリアの首に腕を回して頬を寄せている図像は憐みという意味の「エウレーサ」と呼びます。この形の図像で最もよく知られているのは12世紀に描



エウレーサ型  
(ウラジーミルの生神女)

かれたウラジーミルの生神女マリアです。

そして腕に抱えた幼子イイススをマリアが指し示してこちらを見ている図像は、救い



オディグトリア型

の道に導く姿として「オディグトリア」と呼びます。導引女<sup>どういんじょ</sup>という呼び方もあります。このスタイルを初めて描いたのは福音記者ルカであると言われています。ルカが福音を書いているとき、彼は調査の為に晩年の生神女マリアに取材のため訪問しているのです。最古のものはローマのプリスキラカタコンベにあります。西暦250年頃に描かれたものと推定されています。幼いイイススを育むこのマリアの図像は現在でも生き生きとして見えるほど力強く描かれています。またこの図像に向かって近づくとつれ、描かれている二人がこちらを見ているように描かれているのです。

三種類目のスタイルとしては、「印のイコン(Virgin of the Sign)」と呼ばれる生神女マリアのイコンです。(表紙参照)この図像は、両手を祈るように広げているマリアの体の中央に胎の中のイイススが見えるように描き表されています。そのイイススは私たちに祝福する姿で描かれています。聖フェリシティ教会も他の多くの正教会と同じく、「印のイコン」は私たちのいる聖所からも見える至聖所の一番奥に位置しています。

## 人生のあらゆる節目に祝福を！

主が初めて人の門出を祝福したのは「カナの婚礼」でした。主はそこで水を美味しいぶどう酒に変えて、婚宴を豊かにした記録がイオアン2章に記されています。私たちの人生の時間は、長いようであつという間に過ぎていきます。家族の様々な出来事に神の祝福を求めるなら、まるでカナの婚礼で水がワインに変えられたように、いつの日か味わいをもって人生を思い返すことができるでしょう。

1. お子様の成長に祝福がありますように
2. 入学、新学期、就職、成人式、人生の大きな門出に
3. 銀婚式、金婚式…お二人の生活への感謝と更なる祝福がありますように
4. 病床で過ごす時に神様の豊かな恩寵が賜りますように
5. 産前・産後のための祈禱
6. 新たに購入した家屋や乗り物等の成聖
7. 新しい旅立ちのときに…

また洗礼、記念祭など、教会はいつでもご質問をお待ちしています。管轄司祭、または各教会執事に遠慮なくご連絡ください。

電話:0465-22-2792 (小田原ハリストス正教会)

メールアドレス:[holyspiritodwara@gmail.com](mailto:holyspiritodwara@gmail.com)

### すきまでコラム

猛暑の夏、世界中で山火事や大洪水が観測され、深刻な事態になっています。どれだけの人々や生き物が体を安心して休められる場所を失ったかと想像すると心がひどく痛みます。そんなときに山火事を地下で待ち続ける植物があるということを知りました。シュガーブッシュやバンクシア、バンクスマツなど、その数は意外と多いのです。これらの植物は山火事のあと、堅く閉じていた種を割り、死にかなない丸焦げの地面から空に向かって芽を伸ばします。そうした植物は鳥や昆虫を招き、鳥が種を地面に種を落とすことで、次第に山に緑が戻るそうです。厳しい環境から再び生きることのできる環境へと変えるプログラムを植物全体が持っているということに気づかされました。(A)

しゅ なんじ しわざ なん おお みなち え もつ つく ち なんじ ぞうぶつ み  
主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作り、地は爾の造物にて満ちたり。第103聖詠